

第4回坂ノ市圏域地域連携検討会 報告

- 1 日時 令和2年2月17日(月) 18:30~20:00
- 2 場所 坂ノ市公民館 集会室 参加者 35名
- 3 内容 (1) 大分市在宅医療・介護連携推進事業について(大分市連合医師会)
(2) 坂ノ市圏域の現状について(地域包括支援センター)
(3) 講話
『認知症高齢者を支えるための基礎知識
～専門医の立場からみた多職種連携について～』
講師 医療法人淵野会 緑ヶ丘保養園 白坂 真男 先生
(4) グループワーク 坂ノ市圏域の医療・介護連携について
「認知症高齢者を地域で支えるために～それぞれの立場から～」

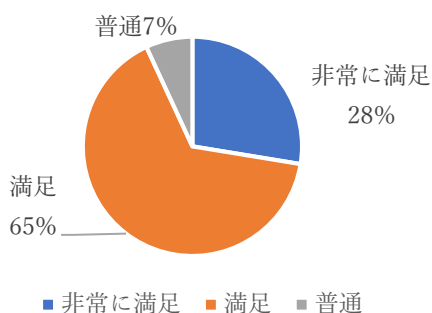
4 参加者数(35名)の内訳

職業別参加人数

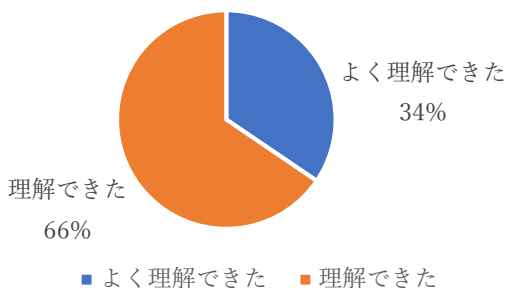


5 アンケート集計結果(回答者29名)

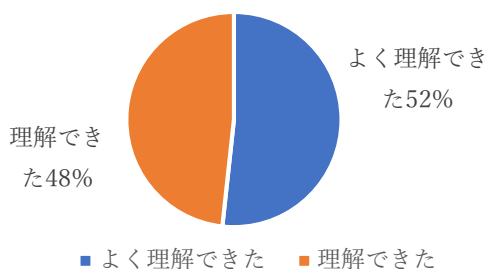
1. 本日の検討会について



2. 大分市在宅医療・介護連携推進事業について



3. 坂ノ市圏域について



問1. 本日の地域連携検討会は、いかがでしたか。

- ・グループワークではいろんな職種からの意見が聞けた。(保健師)
- ・関わりの少ない職場、職種の方と話し、意見を聞くことができてよかったです。(リハビリ専門職)
- ・各専門職の立場からの話が聞けてよかった。認知症の方の症状が再確認できた。(介護支援専門員)
- ・多職種の方の意見を聞けた。(医師)
- ・新しい事を多々知ることが出来ました。実践に使っていただける事ばかりでした。本当にありがとうございました。(薬剤師)
- ・連携を取る事で、どの様な効果があるのか多職種の目線からの意見を伺う事ができた。(介護支援専門員)
- ・他事業所や多職種と話せる貴重な場です。参加人数が少ないように感じました。(リハビリ専門職)
- ・多職種での連携の形を確認できた。(薬剤師)
- ・多くの方の考え方を聞けたのが良かった。(歯科医師)
- ・身近な地域の連携が出来、困った時に相談しやすくなります。(介護支援専門員)
- ・初参加でしたが、1人の利用者の方に多職種が携わりを持ち連携している事を実際に知ることが出来とても良い会でした。(介護事業所関係者)
- ・多職種の方の意見が聞けたこと。(薬剤師)
- ・多職種の方の立場での関わり方を聞くことが出来ました。(看護師)
- ・環境の変化で起こる、せん妄についてより理解が出来ました。(介護支援専門員)
- ・いろんな立場の違う人の意見を聞けた。(医師)
- ・1グループ少人数なので、各職種、各人がそれぞれ発言できて良かったです。(社会福祉士)
- ・各職種から、どうする…ということでグループみんながそれぞれに発表し、それぞれの意見が聞けました。最後の講評に時間を使ってもらい先生の意識や考えも聞けて良かった。(介護支援専門員)
- ・BPSDの薬物治療について具体的な説明を受けることが出来たことが良かったです。(介護支援専門員)
- ・多職種のアプローチ方法を知ることが出来た。(介護支援専門員)
- ・大変参考になりました。(介護支援専門員)
- ・他の職種の方と話す機会が少ないので良い機会になりました。(介護支援専門員)
- ・認知症の症状や対応について学ぶことが出来ました。(事務職)

問2. 問3 円グラフのとおり

問4. グループワークについて

- ・いつもの職場では関わらないケースを検討できて新鮮でした。(リハビリ専門職)
- ・専門職ごとにアプローチの方法が違い、切り口がたくさんあることが気づけてよかった。専門職の話が聞けてよかった。(介護支援専門員)
- ・専門性に特化した素晴らしい意見、現場の生の意見、先生への意見、非常に勉強に

- なりました。ありがとうございました。(薬剤師)
- ・もう少し時間が取れると良かった。(介護支援専門員)
 - ・時間が短かったです。(リハビリ専門職)
 - ・職種ごとの考え方を知ることが出来た。(薬剤師)
 - ・色々な職種で違った見方が出来、参考になりました。(介護支援専門員)
 - ・多くの視点で1つの事を考えるのはとても大事だと思いました。(介護事業所関係者)
 - ・皆さんの体験による意見が聞けて良かった。(薬剤師)
 - ・実際にありうる課題であり、対応の方法など参考にできると思いました。認知症の理解の大切さ、繰り返し行っている事の重要性が理解できました。(看護師)
 - ・認知症への理解をさらに地域で行い、1人1人が社会資源になっていくことの大切さを今後広めていきたいです。(介護支援専門員)
 - ・グループの人が皆、物静かだったのでファシリテーターの方が大変だったな～と思います。(介護支援専門員)
 - ・なかなか答えのない難しいテーマです。(医師)
 - ・認知症の方を地域全体で見守りができる様にしたいと多職種皆が思っている事を確認できました。(社会福祉士)
 - ・先生にしたら在宅はむずかしいと判断すると、すぐに入院をすすめる方もいます。その中で、地域(自宅)で生活するための勉強会なんだ、連携していく事は大切なんだと分かってもらえる機会だと思いました。(介護支援専門員)
 - ・違う視点から意見を聞く事ができて良かった。(介護支援専門員)
 - ・多職種の方の話が聞けて良かったです。(介護支援専門員)
 - ・1つの事例についていろんな視点からの話ができてよかったです。(介護支援専門員)
 - ・各職種のそれぞれの立場で話が出来て良かったです。(介護支援専門員)
 - ・様々な立場の意見が聞けて良かったです。(事務職)
 - ・静かなグループワークでした。ファシリテーターの方がもっと皆さんの意見を引き出す役割をしていただけたらと思います。(看護師)

問5. 医療・介護連携について知りたいこと、学びたい内容について

- ・坂ノ市地区の今後(2025年、2040年)の高齢者、要介護者の増加予測(地区別)(リハビリ専門職)
- ・栄養士さんの意見と連携。(薬剤師)
- ・地域の医療サービス。(薬剤師)
- ・それぞれの職種で困っている事が、優先順位が違うと思います。それを抽出して学びにつなげられたら良いです。(看護師)

問6. 今後、顔の見える連携を行っていくにはどのような方法が良いと思いますか。

- ・事例検討。医師もたくさん参加して地域の多職種との連携につながると思いました。(保健師)
- ・また検討会、講演会をお願いしたいです。

- ・ 地域の実例を使った検討会。(薬剤師)
- ・ 今さらですが、各事業所の特色や力を入れていることを聞きたいです。(リハビリ専門職)
- ・ ご利用者様の家族関係が悪い際どうしたらいいか。(介護事業所関係者)
- ・ 本会はとても良いと思いますので継続できると良いですね。(医師)
- ・ 医療的依存度が高い方の在宅支援等。(介護支援専門員)

6 グループワーク協議内容

(1) 1グループ

グループワーク 1

対応策

- ・無くなったことに対し「無くなったんだね」
- ・受け入れが必要。大変ですね。話を変える。
- ・環境を変えてみる。
- ・本当なのか確認をする。

グループワーク 2

- ・地域の中で指導者的な見方ができる方（認知症サポーター）と連携。
- ・地域の方へ認知症の知識を持ってもらう。サロンの中で認知症の勉強をする。

(2) 2グループ

グループワーク 1

- ・民生委員と一緒に訪問して状況確認を行う。
- ・包括に繋ぐ（住んでいる地区を聞いてその管轄の地域包括支援センターへ）。
- ・認知症初期支援チームに繋ぐ。
- ・個人情報があるので知っていても深くまで伝えられない。
- ・傾聴しながら一緒に財布を探してみる。

グループワーク 2

- ・認知症に対する理解を深めてもらう→出前講座、映画。
- ・地域の手で見守る。

(3) 3グループ

グループワーク 1

介護支援専門員

- ・本人の状況を把握し、介護認定を申請する。サービスにつなげる。
- ・民生委員さんにも相談する。

精神科（精神保健福祉士）

- ・本人の状況、こういったサービスを受けているか等の周辺環境を把握する。

医師

- ・続けて通院や薬を飲むのが難しい。家族のいない方でどうするのか今後の課題。

実際に対応したケース

- ・その人とよく話して情報収集している。
- ・病院から依頼があり介入するケースが多い。
- ・民生委員の方が親身になってくださる。民生委員さんの声かけで生活できている。
- ・服薬は残薬を確認。デイサービスで飲んでもらう。

グループワーク 2

- ・本人も生活のしづらさを感じているだろう事を本人から聞きだし、周りの人に、こういう事で困っているということを伝える。
- ・事実ではない事を周りが理解する。
- ・「財布は、あそこにあるんじゃない？」と言って一緒に探しに行く。

(4) 4グループ

グループワーク1

薬剤師

- ・身寄りがない…薬の管理を確認するために自宅に訪問できるか模索する。

歯科医

- ・認知症進行予防のためにも「かむこと」の大切さ。「食事」「栄養」にも注意する。
- ・「かめること」をフォローしてあげる。

看護師

- ・訪問の拒否はあるかもしれないが、介護支援専門員と連携し生活状況確認、服薬状況確認。

介護支援専門員

- ・まず、本人に近づけるための地域の人、友人、知人をみつけ本人の自宅に訪問して状況把握（受診、食事、生活の状況）していく。→支援できる体制を作る。
- ・外に出てくる事が大事。

理学療法士

- ・サロンの方に講話で認知症の理解を促していく。

グループワーク2

- ・サロンでも認知症の理解を促せるように講話等を計画する。
- ・サロンの中でも本人に近い協力者を得て本人が孤独にならないようにする。民生委員の力を借りる。
- ・本人の不安は何か？サロンの中に本人の居心地のいい状況を作れるように相談する。皆が一緒になって活動しやすい内容を考えていく。
- ・まずは受け入れる。話を聞いてあげる。それから「いなしながら」対応を考えていく。

(5) 5グループ

グループワーク1

介護支援専門員

- ・民生委員にコンタクトを取り本人に会いに行く。

介護支援専門員

- ・話を聞く→包括と共有→一緒に動いてもらう。

看護師

- ・知らない人の場合
- ・知っている人の場合→本人と周囲にアセスメント。

理学療法士

- ・(リハビリとして) 集団での関りが困難。
- ・個別対応等を検討。

薬剤師

- ・身寄りがない、妄想？服薬は？

医療機関関係者

- ・サロンの現場に立ち会う等、アセスメントをおこなう。

グループワーク2

- ・”教育”のあり方→知ってもらえば対応が変わるかも。

- ・“うんざり”の前に介入し、教育、支援をおこなう。
- ・サロンを支える側の人と協力（運営の人たち）。
- ・適度な距離での関り。
- ・近い人（民生委員）からアプローチ。
- ・サロンの本人の目的を確認（本人に）。